今こそ台湾（台湾に見る現代日本に無いもの）

恒石　圭介

１．「台湾に行くぞ」

正直、右城社長から台湾に行くと言われたとき、「今どき台湾？」が率直な感想だった。しかし、行ってみて、その気持ちは逆に「今だから台湾！」に変わった。
その、台湾の凄さを今回は書きたいと思う。観光地の写真が出て来ませんから面白くないかもしれません。

２．「スクータ」

金曜日の夕刻、台湾も「花金」。台北の町並みでの人々の賑わいに驚いた。

そして、スクータの数の多さに合わせて驚いた。

車で道が混む。車は高価。ならばスクータで、という流れから、スクータが街にひしめいている。歩道という歩道はスクータの駐車場と化している。

しかし、そこに POWER を感じました。中国は自転車で行き交う人の群れが有名でしたが、台湾はスクータ、もっと馬力があります。底知れぬ人の力が、スクータの群れに象徴されていた。

３．「被支配」

台湾の窓には、ほぼ、鉄格子がある。
説明はあまりなかったが、やはり略奪を経験した民族だからではなかろうか。

治安自体は悪くないと伺っていたが、あまりの鉄格子の多さに、どれ程のトラウマがあるのだろうかと思ってしまう。

２階だけではない。４階や５階、もっと高い場所でさえ、鉄格子がはまっていた。

これも、台湾の文化なのだろう。

４．「マンション」

高いところまで鉄格子という話をしたが、台北の居住はほぼマンションであるそうだ。

確かにマンションがとにかく多い。

狭い場所に大人数が暮らすためには、この方法しか無く、日本の高度成長期の団地住まいに共通する。

ただ、少し違うのは、高級マンションが建ち並んでいる点だ。その名称たるや、「代官山マンション」「軽井沢マンション」など、日本の地名を使った高級マンションも有るそうで、いかに日本を意識してくれているかがうかがえる。

格差はあるにせよ、狭い居住空間で、勤勉に仕事をする事は、日本人が最も発展した時期に共通する。

５．「信仰」

信仰心の厚い人々が、とにかく多い事も、台湾に POWER がある事の原動力であろう。とにかく、悩みや、願い事を神頼みする事で、仕事をやる気になるというガイドさんの話に耳を疑ったが、実際にお寺に行き、人々の祈る姿を目の当たりにすると、その話に真実みがある。

そして、寺院の数も半端ない。とにかくきらびやかな独特の寺院建築がよく目についた。

どちらかと言うと日本の氏神様は質素なイメージだが、台湾のたぶん氏神様であろう寺院は、高級できらびやかに見えてしまう。これも、人々の信仰の強さを物語っているように感じた。

６．「発展」

そして「台北１０１」に象徴される、発展。

夜市にしても、毎晩がお祭りである。この POWER があるからこそ、国が発展しているのであろう。日本の POWER のあった時代が、今の台湾からうかがえる。今一度、あのときの POWER を持たなければ、日本は近い将来、駄目になってしまうのだろうと、危機感を感じた社内研修であった。今だから台湾に学ぶべきだ。